



学校だより

9月号



令和5年8月31日
横浜市立能見台南小学校

← 学校ホームページ
QRコード

AI と共存できる子を

校長 榊原 一紀

コロナの規制がなくなった今年の夏は、普段の生活ではできないことをたくさん経験できたのではないのでしょうか。7月下旬には、学区のお祭りの見学に行きました。子どもも大人も、日本人も外国人も一緒に盆踊りを踊る姿を見て、多くの人と一緒に何かをすることの良さや大切さを感じました。

能見台南小学校の特色の中になかよし活動があります。1・6年、2・5年、3・4年の異学年がグループを作り、集会を行ったり遠足に出かけたりします。この活動の目的の一つに、「互いの個性を認め合い、思いやる心や関わり方について学ぶ」という面があります。異学年で遠足に行くと、普段はそんなことを言わない子が「歩けない」と甘えてみたり、いつも以上に優しく接する子がいたりします。他にも、坂道を「つかれた」と暗い表情でゆっくり歩いていたら、苦しいのかなと想像して声をかける優しい姿を見ることがあります。

人は表情や動き、言葉の発し方、周りの環境を見て判断することができます。想像できるのは、経験があるからです。人の表情や言葉のトーンなどは一人ひとりちがうので、プログラミングすることは難しく、AIはそのような思いやる心をもつことはないと思います。五感で感じ、想像することのできる人間だからこそ、思いやれるのでしょう。そのためには、様々な経験は大切です。

今話題の生成AIによって、学校教育も大きく変わると言われています。中には、明治維新以来の大きな変化が学校に訪れると言われる方もいました。これまでも、科学技術の成長の中で多くの仕事がなくなってきました。最近では、AIによって俳優の仕事がなくなるとハリウッドでストライキが行われたという話もありました。今後、AIに「勝つ」とか「負ける」とかではなく共存することが重要になっていくでしょう。人間もAIもそれぞれの良さがあるからです。AIは高校野球を見て、涙を流して感動することはないでしょう。人間は高校野球に出場している高校生の裏側にある、今までの頑張りなどが想像できるから、感動することができるのだと思います。

AIと共存できる子どもたちを育てるためには、想像力がキーワードになっていくと思います。AIの良さや人間の想像力を合わせることで、さらに素晴らしい世界を作ることができるのではないのでしょうか。そのために、子どもたちには様々な経験をさせたいものです。秋には、南小オリンピック、なかよし遠足などが予定されています。より良い経験ができるように、支援していきたいと思っています。